

市民ワークショップの概要とワークの結果

【1】実施概要

1-1 目的

第3次北杜市総合計画の策定に向けて、北杜市民の視点やアイデアを得るとともに、北杜市において「次の10年に注力すべきこと」を導出することを目的に実施した。

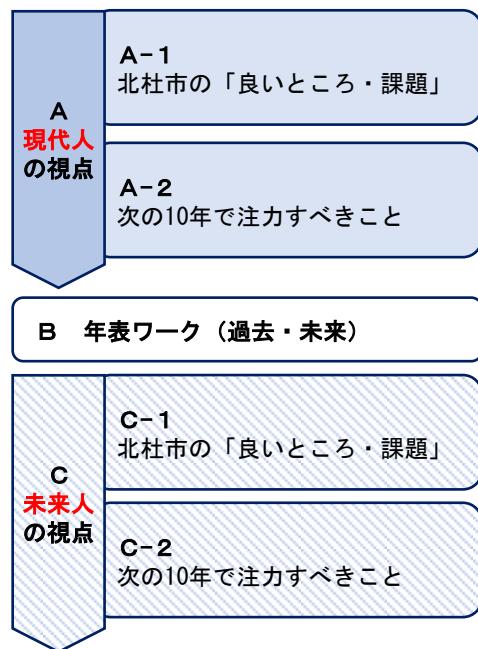
1-2 日時 9月11日(土)

1-3 実施方法

- ファシリテーターが議論の整理等を行い、テーマについて話し合うワークショップ形式。
- 持続可能な社会に向けて、長期的な視野で議論を行うため、フューチャーデザイン(※)の手法を取り入れて実施した。
- 1980年代から2060年代までの「年表」を用いたワークを行ったうえで、現代人としてだけでなく、2060年の将来人になるロールプレイにより未来人の視点で意見交換を行った。
- 新型コロナウイルス感染に配慮し、オンライン開催とした。

1-4 参加者数 8名

1-5 ワークの流れ



(参考) ※ フューチャーデザインとは

持続可能な社会の形成に向けた政策検討のための手法。政策検討にあたり、現代世代の人々の視点だけではなく、利害関係者として将来世代の人々の視点も取り入れて考えることで、より最適な政策を導出する。

【2】現代／未来の北杜市のよいところ・課題

- 北杜市は都市住民からは自然が豊かな地域と評価されているが、人口減少が加速しており、自然景観も損なわれているという指摘もある。移住者からは託児や都会的な文化の面で物足りないと感じられることもある。
- 2060年の北杜市は、きれいな水と自給自足ができる田舎として評価されているが、人口減少が深刻で、市民が環境を保全しなかったエリアは荒廃しているという未来人からの報告があった。

		現代人の視点	A-1 北杜市の「良いところ・課題」	未来人の視点	C-1 北杜市の「良いところ・課題」
良いところ	自然	住民にとっては住みやすく、市外の人にとっては豊かな自然環境が魅力的		きれいな水を保有していることが強い魅力	自給自足ができる魅力的な田舎として評価
	農業		農業に適した地形・気候		
	子育て		幼児期の保育・教育施設の選択肢がある		
課題	人口	人口減少、特に若年層の減少が顕著 働く場が少ないため、移住や若者の定住が進まない		東京一極集中が緩和され、首都圏に近いという強みが薄れ、人口減少がさらに深刻化	清里などの別荘地などは荒廃してしまう
	景観	太陽光発電の設置による開発などで、豊かな自然景観が損なわれる 地元住民が自然景観の価値に気づかない		市民が環境を保持していく必要性が高まる	環境を保護する市民がいなければ、景観は荒れていく
	子育て	働いている女性が子どもを安心して預けられる選択肢が少ない 自治会や近所の人が子育てに協力できる体制づくりが不十分 自然を活用した教育施設が少ない			
	趣味	都会に比べて、趣味や専門性を広げることができるコミュニティが少ない			

【3】次の10年に注力すべきこと／縮小・撤退すること

- 現代人の視点からは、これから10年間の方針として、まず第一に、北杜市の強みや独自性を活かした取り組みやビジネスを突破口にすべきという意見、全方位的ではなく明確なビジョンを設定し重点化していくことが必要という意見があった。人口増加策については若年層はもちろん重要であるが、すでに北杜市への関心が高い高齢層を呼び込み、地域の活力にしていけるアイデアが出た。豊かな自然・生態系の価値を市民が感じ、自然を活用した暮らしを普及していくべきという意見と、自然資源を活用した経済活動の活性化を探るべきという意見があった。
- 将来人の視点としては、未来に北杜市の強みを残していくために、無秩序な開発を抑制し、大胆なゾーニングにより、景観を維持できるような土地利用を推進すべきであり、そのために、官民が協力・協調していくことの重要性が訴えられた。また、産業については、地域資源を活用することで経済の域内循環をまわす経済政策を行うことも提案された。人々の暮らし方については、自然と寄り添った暮らしができる環境を活かして、住民の多くが「田舎暮らしのプロ」になれるような教育や学習を普及させることが重要という意見が出た。

	現代人の視点	A-2 次の10年で注力すべきこと	未来人の視点	C-2 次の10年で注力すべきこと
ビジョン	<ul style="list-style-type: none"> 移住者の獲得に向けては、北杜市の山岳の魅力や、自然、生態系など、他の都市にはできないことや、ないものを活かした取り組みやビジネスを重点化し、PRしていくべき 北杜市の財政は厳しいため、市民全員のニーズに応える方向で取り組みを進めるのではなく、「住む人を重視する/観光のまちにしていける」など明確なビジョンを設定し、重点化するべき 再生可能エネルギーで稼働するまちの実現(サーキュラーエコノミー) 		<ul style="list-style-type: none"> 北杜市の魅力を保ちつつ、持続的な生活を可能にするため、市内にて無秩序な開発を行うのではなく、景観ゾーン、発電ゾーン(太陽光・小水力等)などを地域の特性に合わせてゾーニングを行い、景観を維持をしていくことが必要 住民と行政が協力し、景観の維持と適切な開発に挑戦する 	
人口	<ul style="list-style-type: none"> 若い世代の移住者を増やす。そのためには就労環境と子育て環境の充実が欠かせない 都内高齢者の呼び込みにより人口を増やす 労働力の確保に向けて若年層の移住・定住にだけ目を向けるのではなく、高齢者も生涯にわたって働くことができるような環境を整備すべき 			
自然	<ul style="list-style-type: none"> 生物多様性の保護・啓発 市民が協働し、自然の価値を維持し高める 自然に寄り添い生きるための教育、訓練 		<ul style="list-style-type: none"> 自然と寄り添い暮らすことができる「田舎暮らしのプロ」を育てる 	
産業	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境と地域経済のどちらも維持できる、地域資源を活用した産業を興す 農業の取り組みを促進 生き方に農業を取り込もうとする人への支援「半農半X」 		<ul style="list-style-type: none"> 域内における経済循環を高める 	
教育			<ul style="list-style-type: none"> まちづくりに対して当事者意識を持てるような教育 	